

平成28年度

平成28年 11月30日 12月号 (第493号)

学校だより



横浜市立すすき野小学校

TEL045 (901) 6232 FAX 045 (904) 4693

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/susukino/index.cfm>

おこやかスマイル すすんで考え行動し きょうかし合う すすきっ子

12月

「夢とキリカエ！」

副校長 井桁 寛

11月8日(火)の4年生の音楽集会では、たくさんの保護者の皆様がおいでくださり、子ども達のがんばりに温かい励ましをいただき、本当にありがとうございました。

一生懸命に歌う姿や演奏する気持ちが体育館にあふれていてとてもよい発表会になっていました。さて、4年生の発表の中に「きっといつかぼくだって」という歌があり、その中で「サッカー選手という自分の夢を周りの人は無理というけれども、たった一人でブラジルまで渡った人がいてプロのチームで活躍したという」という歌詞があります。これは、現在横浜FCにいる三浦知良さん(カズさん)のことだと思えます。

カズさんは、私立静岡学園高校を1学年修了を待たずに、ブラジルに単身で渡航してCAジュベントスに所属しました。その当時のカズさんは身長が低く、テクニックは持っていたものの他に一流と呼べるような強みはなく、指導者達はブラジルでプロのサッカー選手になりたいというカズさんの夢は実現不可能だと考えていました。



しかし、サントスFC、ヴェルディ川崎、イタリア・セリエAのジェノアと活動の場を広げ、現在もJリーグ最年長プレイヤーとして活躍しています。

すすき野小の子ども達も、4年生の歌にもある「きっといつかぼくだって」とカズさんのように夢をもって活動してもらえたらと思います。

カズさんは、よく「キリカエ」という言葉を言っています。この「キリカエ」は、日本から生まれた言葉で、ブラジルでは、「早く攻めろ」「すぐ戻れ」と話すことはあっても、「キリカエ」とは、言わないそうです。

さて、このキリカエですが、学習時間と休み時間とのキリカエ、うまくいく時とうまくいかない時のキリカエなどがあります。

カズさんは、1985年頃には夢を諦めた上で日本に帰国することも一時検討したのですが、ふと寄ったリオの公園で現地の貧しい少年達がサッカーをしている様子を見かけたことが、帰国を思いとどまるきっかけを作ったそうです。カズさんは、その少年達の様子を見て、裸足の子や片足がない子もおり、ボールも古く汚いものだったが、皆楽しそうにボールを追っており、その様子を見て、「自分には両足も、スパイクも、いいボールもある。何を俺は贅沢なことを言っているんだ」と思い、帰国を思いとどまったそうです。

それが、現在の活躍につながっているのですが、うまくいかない時にこのようにキリカエが上手にできるかできないかで気持ちが変わってきます。

すすき野小の子ども達も夢をもち、努力するとともに、うまくいかなかった時に、気持ちのキリカエを上手にして夢が実現できるように頑張ってもらいたいと思います。

今月も保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご支援をよろしくお願いたします。